

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	数詞：日本語における「大」と「小」〈卒業論文要旨〉
Author(s)	松川, 弘
Citation	広大言語, 11 : 22 - 23
Issue Date	1971-12-06
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046369">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046369</a>
Right	
Relation	



# 数 詞

## 日本語における「大」と「小」

松 川 弘

日本語では、どの位の数から「大」「多」を示しているのか、「故事・ことわざ」に関して調べてみることにする。

### 〔 第 1 章 〕 分類別による「大」と「小」

#### 〔 I 〕 金額・価値

- 大体「百」を境に「多い」と「少い」が分かれているようである。

(例 ~~十日十~~銭 百日百銭)

#### 〔 II 〕 距離・広さ

- 範囲の場合は「千」以上でない「広い」という概念を表わしていないようである。

(例 虎は千里の藪に住む)

- 距離に関しては、「十」から「長い」・「遠い」という概念を示している。

(例 有智無智三十里)

#### 〔 III 〕 日数

- 「日数」の場合、「天候」に関しては「十」から「人・動物・植物」に関しては「百」前後から「長い」という概念を示している。

(例 高値  $\uparrow$  日底百日)

#### 〔 IV 〕 年数

- 「3～10」以上が「長い」ということを示している。

(例 福德の  $\frac{3}{10}$  年目)

#### 〔 V 〕 寸法

- ここでは「十」・「百」が使用されておらず、「五」・「七」・「八」で大体「大」を示しているが、一応「千」を基準にしておく。

(例 五尺三寸上男)

#### 〔 VI 〕 人数・動物数

- 「五」以上の数になると大体「多い」といえる。

(例 男子七人あれば長者)

#### 〔 VII 〕 回数

- 「三」以上ですでに「多い」ということを示している。

(例 仏の顔も三度まで)

#### 〔 VIII 〕 年齢

- 男性の場合は、16～25才位が「一人前」への過渡期で、30～40才が「一人前」

であり、50才以上になると「年寄り」ということになる。

女性の場合は、13才から「一人前」として扱われ、18、19才が「盛り」、20～21才以上はすでに「中年」になるようである。

(例 50にして立つ、鬼も18番茶も出花)

〔Ⅸ〕年代 三十 七〇

○「三代」以上が長いものとして使用されている。

(例 名家三代続かず)

〔Ⅹ〕食物・飲物

○「七」位から「大」の部類に入るようである。

(例 大屋のかて鉢なせても杯)

〔第2章〕まとめ

〔Ⅰ〕数の個々の使用割合

○最も多く使用されている数は「三」で、次に「一」・「千」と続く。

反対に、年齢以外にはほとんど使用されていない数は、「十六」、「三十九」……「八千」である。

〔Ⅱ〕全体からの大小

○大体「三～十」、特に「十」を境として「大」、「小」に分類できるようである。

〔第3章〕特別な数の使用

○「千」、「万」と「一」、つまり「大」と「小」が一緒に使用されているもの。

(例 千里も一里)

テキスト 鈴木 棠三 「故事・ことわざ辞典」

棠 「続 故事・ことわざ辞典」(東京堂出版)

(文責 随木 幸恵)